第35回びわこ学園実践研究発表会報告 【平成27年12月5日生)立命館大学びわこ・くさつキャンパス(滋賀県草津市)】

びわこ学園企画研究部

12月5日、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて第35回びわこ学園実践研究発表会を開催しました。今年度は「いのちと暮らしに寄り添う支援」と題し、びわこ学園の理念に立ち返って実践を検討するという企画を立てました。午前中の講演会と午後からの3つの分科会という構成で、全体で250名を超える多数の方々にご参加いただきました。

●午前の部 「全体講演」





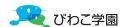
全体会の様子と児玉真美先生

午前の講演の部は、フリーライターで日本ケアラー 連盟理事の児玉真美先生に「いのちに線引きをする時 代」というテーマでご講演いただきました。先生は障 害がある子どもを持つ親の立場から、生命倫理の問題 を研究され発信されています。今世界で「無益な治療」 論のもとで安楽死や医師幇助自殺の合法化が進んでい るという衝撃的な実態、そしてそれが重い障害がある いのちの切り捨てに繋がるものであることを、危機感 を持ってお話いただいきました。その上で、「人間存 在の本来的なあり様は個体の能力の総和ではない、人 は関係性を生きる存在であり、意思決定の困難な人た ちを『社会で支える』視点こそが今求められているこ とである。それはびわこ学園の理念そのものではない か」ともお話しいただきました。先生のお話しを伺い、 重い障害がある人に向き合い、その人との関係性の中 で「本人さんはどう思ってはるんやろ」と自らに問い 返し、そしてその思いを発信していくことが支援にあ たる者の役割であることを再確認し、『それでも光は ともに生きることの中に』という先生のことばを深く、 強くこころに刻むことができました。

●午後の部 「各分科会」

第1分科会は「医療ニーズの高い利用者のいのちと暮らしを支える」というテーマで、①びわこ学園医療福祉センター野洲から「人工呼吸器を装着後に精神的な安定をもたらした要因~A氏の事例を通して~」②びわこ学園障害者支援センター「ピアーズ」から「超重症者支援において通所で求められるニーズと役割~B氏の取り組みを通じて~」③びわこ学園医療福祉センター草津から「超重症児者の外出・宿泊支援~人生に彩りを!安心して楽しく出かけるための工夫~」の三題を報告しました。今回の発表は、医療ケアの中でも特に呼吸に関するケアを適切に行い、苦痛を軽減することが、本人の自己表現力を引き出し、社会参加・日中活動を充実させ、豊かな暮らしにつながるといった報告でした。

超重症児者のいのちと暮らしについて理念に立ち返り、本人が望んでいることを確かめ合いながら、何かをあきらめることではなく、何があればいのちと暮らしに彩を添えることができるのかを、チーム連携の中で模索し続け実践をすることが大切だと感じられる時間となりました。









各分科会の様子(左から第一分科会、第二分科会、第三分科会)

第2分科会は「生活をゆたかに~日中活動支援」というテーマで、①びわこ学園障害者支援センター「たいよう」から「地域との活動交流~利用者の『出前教室』の取り組み~②知的障害児者地域生活支援センター「さくらはうす」から「利用者の自発的、主体的な活動参加を支援する~感触活動の6年間の取り組みを通して~③びわこ学園医療福祉センター草津から「暮らしを豊かにする姿勢保持のとりくみ~キャスパーアプローチ~」の三題を報告しました。

これらの報告から、①活動を「継続」することの大事さ、②利用者さんの「つもり(心づもり)」が利用者さんの主体性を引き出すということ、③活動を通して地域との関係を広げることは、利用者さんの自立に繋がること、④身体の状態を整えることは利用者さんの内面を引き出すうえで重要であるということを参加者と共に学ぶことができた分科会となりました。

第3分科会は「びわこ学園における専門的支援」というテーマで、①びわこ学園障害者支援センターの相談支援事業「びわりん」から「医療的ケアの必要な重症心身障害児の相談支援」、②知的障害児者地域生活支援センターの理学療法士から「大津市保育園における障害児保育巡回相談の取り組み」、③びわこ学園医療福祉センター野洲第3病棟から「行動障害を呈する方の地域支援」の三題を報告しました。

いずれの報告においても、重症児者や行動障害を呈する人が暮らす地域や家庭の生活においての困難さや思いを受けとめ、重症児者施設での実践を通して積み上げてきた経験や知識から適切な支援方法を提案する事だけではなく、暮らしという場において、一様には解決しない問題や支援課題をご本人や家族、関係する支援者(関係機関や事業所)が顔の見える関係の中で、丁寧な話し合いを重ねて支援を行うことが、現在の生活を支援するだけでなく、これからのご本人や家族の生活につながる支援となることを改めて学んだ分科会となりました。

「重い障害を持っておられる方々が入所であっても在宅や地域生活においても、それぞれの暮らしの場で求められているいのちと暮らしに寄り添う支援を提供する」というびわこ学園の支援展開を目標に掲げ、今回確認した課題を次の取り組みにつなげていきたいと思います。

(事務局から)

10月から本格的に参加者の募集を始め、当日には会場がいっぱいになるくらい多くの方にお集まりい」 ただきました。今後もこのような機会で皆様からご意見をいただきながら、より良い日々の支援へ繋が るよう取り組んでいきたいと思います。県外・県内よりご参加いただいた皆様、ありがとうございました。